令和５年度

学校だより
６月号

かわかみ

令和５年６月７日
横浜市立川上小学校
横浜市戸塚区秋葉町203－２　電話 811-9345 FAX811-5961

自慢の子どもたち

学校長　　堀部　尚久

想定をはるかに超えた集中豪雨による被害が、日本の各地から報道された先週末でした。既に梅雨入りした地域もある今日この頃、横浜でも紫陽花の彩りに一段と濃さが感じられるようになりました。

さて、5 月 27 日（土）、熱中症が懸念される中で実施した「川上小学校　第 132 回大運動会」は、子どもたちが、本気になって夢中になって一生懸命に自分たちの運動会を創り上げる姿が、観る人にたくさんの感動を与えた「川上小らしさ」に満ち溢れた運動会になりました。

参観いただいたご来賓の皆様をはじめ、保護者、地域の皆様には、朝早くから温かい拍手と力強い声援を賜りました。心より感謝申しあげます。また、当日はもちろんのこと、前日まで時間を掛けて遅くまで様々な打ち合わせや準備に、労を惜しまず快く支え続けてくださった PTA 役員・実行委員・保護者有志の皆様には、重ねてお礼を申しあげます。皆様、本当にありがとうございました。

今年の運動会は、アフターコロナに向かう情勢下、川上小のよさや特色を活かせるこれからの運動会の在り方を視野に入れ、様々な面から新たな試みを加えたり、既存の方法を修正したりしながら Update（更新）に努めました。一例を挙げると、運動会プログラムの面での「ペア学年競技」の導入です。また、会場づくりの面での、「マイフラッグ」による飾り付けです。これらの取組は、いずれも日々の縦割り活動の延長線上にある子ども同士のコミュニケーション機会の充実を意図した取組でした。ペア学年競技の練習では、子どもたち同士の気遣いや、チームとしての団結心の高まりが感じられました。また、万国旗に代わるマイフラッグづくりでは、ペア学年の仲間同士で、運動会で自分が頑張る姿や目指そうとする姿を確かめ合いながら作成にあたることで、運動会に臨む期待や意欲の高まりも感じられました。そのほかにも、今年は参観人数の制限解除に踏み切り、参観可能場所の拡張も図りました。

今回の運動会テーマは、児童会テーマに基づく話し合いで**「全力　協力　笑顔の花を咲かせよう」**を掲げました。このテーマにも、これまで本校が大事にしてきた「川上魂」がしっかりと受け継がれています。友達といっしょに重ねてきた苦労や努力をばねにして、一人ひとりが全力を出し切る姿。互いに励まし合い支え合いながら、力を合わせて創り上げてきた友達とのチームワークを信じ成果を発揮する姿。そうした姿を思い描いて、川上小の仲間でやり切ったという笑顔の花を咲かせられるような運動会にしたいという子どもたちの思いや願いが込められていました。

迎えた当日の子どもたちの姿は、本当に素晴らしかったです。前日まで重ねてきた練習にも増して、何に対してもひた向きに一生懸命に頑張る姿には、自信がみなぎりたくさんの笑顔に溢れていました。徒競走では、ゴールを目指してあきらめずに歯を食いしばって走る子どもたちに、粘り強さとともに頼もしさを感じました。４色対抗リレーでも、抜きつ、抜かれつという状況が何度も繰り返され、スタートからゴールまで目を離すことができませんでした。集団演技では、満面の笑みを浮かべ、仲間と共に演技を楽しみながら創り上げている姿にも、日々の練習の成果が表れていました。演技を終えた子どもたちの表情には、「力いっぱいやり切った」という成就感に満ちた輝きがありました。とりわけ、高学年が伝統として引き継がれ演じてきた「魅せろ！全力！本気！川上絆ソーラン」は、一人ひとりのダイナミックで、きれのある力強い動きとともに、着実に築いてきた仲間との信頼による絆が感じられました。

声をからしながら運動会を終始盛り上げ続けた応援団の姿には、心から感激しました。掛け声や動き、そして凛とした姿勢や真剣な表情で応援をリードした子どもたちは、見事にその役割を果たしました。応援をし合う子どもたちからは、仲間を思う優しく温かい心も感じました。ペア学年競技でも、学年を超えた声援や励まし、いたわりや労いなど、子どもたちの声掛けが本当に微笑ましくも感じられました。高学年の子どもたちの係活動でも、自ら進んで活動するという責任感が感じられました。これらの姿は、正に、今年の運動会テーマに繋がる姿であったと思います。

保護者の皆様からいただいたアンケートにも、感動に繋がる子どもたちの姿が数多く記されていました。「日々、ダンスの曲を口ずさむようになり、毎日運動会練習のことを話してくれて、楽しみで、楽しみで我慢ならないという準備期間でした。」「運動会までの間も、日に日に自信が増しているようで嬉しかったです。」など、運動会当日に向けて思いを膨らませる子どもの姿を伝えていただきました。「上級生は下級生に優しく教えていたり、声掛けをしたりする応援の姿がとても微笑ましかったです。」「競技が終わった子たちが席に戻ってきたときに、同じチームの子たちが『お疲れ』『ナイス』と声を掛け、子どもたち同士で励まし合う姿があちこちで見受けられました。」「ペア学年競技がすごく印象的でした。お互いに助け合って競技している姿に、子どもの成長を非常に感じました。」など、縦割りグループやペア学年での仲間を大事にする子どもの姿も観ていただきました。「最後まであきらめずに頑張る力が素晴らしいと感じました。たとえ自分の望む結果にならずとも、頑張った自分に胸を張れるよう全力を出すことの大切さ、それを過去の経験から教えてくれた６年生の姿勢は、素晴らしかったです。」「一人ひとりが活躍できる場が提供され、立派に全校生徒の前で自分の言葉で発表できる環境は、将来の子どもたちのプレゼン能力に繋がると思います。」など、保護者の皆様からも温かいお褒めの言葉や価値付けの言葉をいただきました。

「感動いっぱいの運動会でした。６年生の下級生に対する心優しい対応に、それぞれの係の持ち場での配慮や動きのよさに感心しました。ソーラン節では、力強さの中に気持ちのこもった演技を見て、涙してしまいました。先生も涙をぬぐわれており、すべてを語っていると思いました。実行委員の自分の素直な気持ちが織り込まれていた挨拶にも、胸が熱くなりました。いろいろな場面で、本当にたくさんの感動をいただきました。川上の子どもたちは、自慢の子どもたちです。」来賓として参観された、地域の方から手渡された一通のアンケートに記されたメッセージです。

演技・競技種目にとどまらず、様々な場面で見せた子どもたちの姿が、観る人に大きな感動を与えました。そうした子どもたちに、私たちも改めて大きな拍手を送りたいと思います。

今年の運動会にも、本校が大事にしてきた、たくさんの教育的な価値がありました。地域の方からいただいた**「川上の子どもたちは、自慢の子どもたちです。」**という言葉は、教職員にとっては、本当に重みがある嬉しい言葉でした。力強い励ましと労いのエールをいただいた思いです。子どもたちが運動会を通して仲間とともに培ってきた育ちを、今後の学びや生活によってさらに磨き続け、保護者・地域の皆様のご期待にも沿えるよう、これからも教育活動の質の向上に努めて参ります。